



「復興ツーリズム」って何だろう

ふくしまNPOネットワークセンター理事 清水 修二

現下の「復興ツーリズム」には2通りの意味があるといえます。1つは「ツーリズムを復興させる」ことです。震災や原発事故の影響で福島県の観光業は甚大な被害をこうむりました。とくに放射線被曝への懸念から子どもたちの教育旅行は一時、壊滅状態になってしまいました。会津地方はNHK大河ドラマのおかげもあって失地回復がなったようですが、全県的にはまだまだ「原状回復」とはいえないでしょう。折からdestination・キャンペーンのスタートです。なんとか観光県ふくしまの復興を実現したいものです。

もう1つの意味は、言うまでもなく「災害からの復興をツーリズムにする」ことです。被災、そしてそこからの復興過程をいろんな人に見てもらう。それを見ること自体がツーリズムの豊かな内容となる。「観光」という言葉は、もともとは神社仏閣や風光明媚な光景を楽しむことでしたが、一頃から、農作業を織り込んだ農村ツーリズムなど体験型・学習型の旅行の意義が称揚されるようになりました。「災害」も、そういう体験学習の対象になりうるということです。

せんだって南相馬市、および富岡町・川内村でのモデル・ツアーに参加しました。実はそれに先立って「ふく・ふくプロジェクト」で岩手県大槌町を訪問し、現地で復興ツーリズムを事業化している「おらが大槌夢広場」にいろいろ教えてもらってきました。そこでは、訪問する側と受け入れる側とで win-win の関係をどうやって作るかが非常に重要であるとの印象を、私は受けました。南相馬や富岡・川内でも同じことがいえます。物珍しさ・好奇心といった素朴な気持ちを頭から否定せず、しかし体験した後では「思いがけない何か」が訪問者の心の中に残るような、そんな視察が組み立てられれば成功といえます。同時に、受け入れる現地の人の側に、「伝えられて良かった」と思えるような何かはつきり見えないと長続きはしないでしょう。金銭的なしつかり作ることゆるがせにはできません。

私は大学でのゼミナール活動のテーマを今年度は「復興ツーリズム」としました。NPO ともタイアップしながら1年間、じっくり取り組むつもりです。



バスの車中では、震災直後の被災地の写真と現在の復興状況を比較しながらの説明も行なわれた。



南相馬市(上)、富岡町と川内村(左)。それぞれのツアーのようす。



『復興へ一歩、一歩』

～ふるさと・きずな維持再生支援事業 成果報告交流会～

3月16日(月)13:30～17:00 杉妻会館(福島市)大会議室に於いて「平成26年度福島県地域づくり総合支援事業(ふるさと・きずな維持・再生支援事業)成果報告交流会」を開催しました。

事業報告をおこなった団体は事業実施30団体のうち25団体で、北は北海道から南は広島と、未だ避難者が広域にわたっている現状を肌で感じました。一般参加者は復興支援をおこなっているNPO 団体や地域活動団体の皆さん、行政職員の方々など75名でした。

分科会はA～Dの4つに分かれておこなわれました。各分科会ではテーブルコーディネーターの進行で進められ、実施団体の報告を受けてディスカッションが活発におこなわれました。今回は分科会のテーマの設定がなかったのですが、それぞれの課題やニーズ、今後の支援のあり方について熱を帯びた意見交換がおこなわれ、事業実施のノウハウなど情報が共有されました。



これからの支援のゆくえを
探ったシンポジウム

後半の全体シンポジウムでは本事業の運営委員会の委員の皆さんと、各分科会のテーブルコーディネーターが分科会の内容を確認しながら、ディスカッションがおこなわれました。課題としては、支援の長期化にともなう人材育成、県外避難者への支援のあり方、ネットワーク形成が挙げられていました。また、仮設住宅から復興公営住宅への移行やふるさとへの帰還など、あらたなコミュニティ形成再構築が課題であることを共有したうえで、さらなるNPO 団体等の連携の重要性を確認しました。

事業実施団体をはじめ参加者の復興への思いで会場は熱気に包まれました。支援のチカラが復興へ確実に一歩一歩前進させてくれると実感できる成果報告交流会でした。皆さんのご協力に感謝申し上げます。なお、当日のようすをYouTubeでご覧いただけます。

ダイジェスト版 <https://youtu.be/Lu-Yr11JPFg> ぜひご覧ください。

※この事業は今年度も実施されます。(事務局：福島県文化振興課)

(報告：ふくしま地域活動団体サポートセンター所長

齋藤 美佐)



白熱した各分科会



休憩時間にはパネル展示コーナーで交流

【H26年度成果報告団体】特定非営利活動法人つながっぺ南相馬／特定非営利活動法人シニア人財倶楽部／特定非営利活動法人野馬土／特定非営利活動法人ハッピーロードネット／特定非営利活動法人フラガールズ甲子園／特定非営利活動法人浮船の里／NPO法人団塊のノーブレス・オブリージュ／東日本大震災・山梨県内避難者と支援者を結ぶ会／特定非営利活動法人おぢや元気プロジェクト／茨城県内への避難者・支援者ネットワークふうあいねっと／認定特定非営利活動法人たすけあいの会ふれあいネットまつど／特定非営利活動法人ひろしま NPO センター／震災支援ネットワーク埼玉／特定非営利活動法人川内村NPO協働センター／特定非営利活動法人シャローム／山形避難者母の会／いいたてまていの会／特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ／すかがわ地域交流促進プロジェクト実行委員会／特定非営利活動法人フードバンク山形／NPO法人災害復興支援ボランティアネット／特定非営利活動法人3・11被災者を支援するいわき連絡協議会／特定非営利活動法人おにスポ／特定非営利活動法人Global Mission Japan／一般社団法人Bridge for Fukushima／子どもが自然と遊ぶ楽校ネット

◆2014年度住友商事東日本再生ユースチャレンジ・プログラム◆ ～インターン修了報告会～

3月14日(土)、「住友商事 東日本再生 ユースチャレンジ・プログラム インターン奨励プログラム 2014 年度インターン生の修了報告会」が行われた。福島では2期生の修了報告会にあたる。福島県内5つの受入れNPO団体で活動した7名のインターンはそれぞれ工夫をこらした発表を行った。

私は修了報告会の朝、7名のインターンに「自分が9か月前と比べて変わったと思うか？」と質問した。全員が迷うことなく元気に「変わった」と、答えた。インターン活動は挑戦と悩み、喜び、様々な感情がつまった内容の濃い9カ月だ。そこには、受入れ団体との絆、同期インターンとの仲間意識、様々繋がりがあふれる。修了証と成果証を手に、インターン修了生は晴れやかな笑顔みせた。

4月25日(土)から、2015年度のインターン募集が新たに始まる。是非、多くの若者の応募を期待したい。

(報告:ふくしまNPOネットワークセンター理事

内山 愛美)

「住商インターンを9か月間経験して」

●大山紘平

この9か月間で、大学生活では得ることのできない多くの経験をする事ができました。そしてここで得たものは、これからの人生で役に立つであろうことを確信しています。多くの方に活動を応援していただき、ありがとうございました。

●清水沙紀

真正面から自分と向き合ってくださいるメンターさんをはじめ温かく見守ってくださる沢山の方々に支えられ、9ヶ月間という長い時間をかけて自分を見つめ直すことができました。この経験を糧にこれからも色々なことにチャレンジしていきたいです！



笑顔の修了生と受入れ団体等関係者の皆さん

『第3回国連防災世界会議 in 仙台』

平成27年3月17日(火)TKP ガーデンシティ 仙台30階ホールDに於いて、福島第一原発建設の経緯から東日本大震災による原発事故・複合災害を経験した福島の現在に至るまでの道筋を県内で活動する地元NPOスタッフの視点から振り返り、原発に依存しない地域づくりを考えるという目的で「第3回国連防災世界会議」期間中にパブリックフォーラムを開催しました。ふくしまCSO連合が主催となり、当法人からは星野理事、職員小林、私が参加しました。

第一部 トークセッション「福島で起きたこと」

- 1 福島第一原発事故～原発建設と事故、避難【大熊町の場合】
- 2 原発事故～届かない情報、困難を極めた要援護者の避難
- 3 現在の状況～福島の子もたちは今

第二部 パネルディスカッション

「原発に依存しない地域をどうつくるかー福島
の市民社会の視点から」

という2部構成で、大熊町議会・福島県社会福祉協議会・NPO等の各団体からスピーカー・パネラーとして出席頂き、一般参加者は130名と多くの方に来場して頂きました。

地元NPOの立場から福島の経験と教訓を国内外に発信する場を設けられた意義は大きく、福島の復興へ向けて継続して現状の課題に取り組んでいく必要性を改めて感じました。

また、13日～16日には、せんだいメディアテーク6階に於いてブース展示をしており、こちらには潘基文国連事務総長夫人をはじめ泉田新潟県知事などの著名な方々にも足を運んで頂いております。

(ふくしまNPOネットワークセンター理事 菅野真)

『ふくしま市民活動フェスティバル 2015』開催

この5月31日に「ふくしまNPOネットワークセンター」が毎年取り組む事業の一つであります『ふくしま市民活動フェスティバル 2015』をAOZ、ふくサポ、中合の3カ所合同で開催します。(ふくサポと中合は28日から31日まで)

いつもの年と同じように県北のNPO・市民活動団体の協力を得て、なんとか形になりつつあります。参加団体数も昨年と同じくらいになり、事務局としては安堵しております。

今回は新たにサブテーマに「子どもに未来・笑顔」と掲げまして、少し焦点を明確にしてみました。

各開催場所の内容に関しては、AOZでは従来と同じような形ですが、新しい試みとして「ふくサポ」ではアンパンマンのタペストリーの展示を、中合では福島市出身の絵本作家3人の原画と著名作家の原画展を企画しました。他に幼稚園のお子さんとのコラボも計画中です。

市内の大学にはボランティアをお願いしております、できるだけ多くの方々、市民の皆様と少しずつ手を組み一緒に形を実施できればと考えてきました。

関係者の協力の下、奮闘中ですが、なんとか成功裏に終えたいもののがんばっておりますので、さらなるご協力をお願いいたしますと同時に、多くの市民の皆様、関係者の皆様のお出でを心よりお待ちしております。

(ふくしま NPO ネットワークセンター理事 齋藤健)



フェスティバルのチラシ

—福島県より受託、運営している施設—

●ふくしま地域活動団体サポートセンター

〒960-8043 福島市中町 8-2 福島県自治会館 7F
TEL 024-521-7333 FAX 024-523-2741
URL <http://www.f-npo.jp/saposen/>
E-mail saposen@f-npo.jp

—福島市の指定管理制度で運営している施設—

●福島市市民活動サポートセンター

〒960-8041 福島市大町 4-15 チェンバおおまち3F
TEL 024-526-4533 FAX 024-526-4560
URL <http://www.f-ssc.jp>
E-mail f-ssc@bz01.plala.or.jp

—福島市より受託、運営している施設—

●まちの駅 ふくしま情報ステーション

〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま 1F
TEL 024-525-4020 FAX 024-525-4027
URL <http://www.machi-fukushima.jp>
E-mail info@machi-fukushima.jp

—自主事業及び助成事業として運営している施設—

●ふくふくプロジェクト事務局

〒960-8031 福島市栄町 10-3 キッチンガーデンビル3F
TEL 024-521-9311 FAX 024-521-9311
E-mail fukufukupro7@gmail.com

◆◆お知らせ◆◆

2015年度通常総会の日程は、7月18日(土)に決定いたしました。詳細は次号でお知らせします。

編集後記

✉ 5月は当センターの決算月です。台風上陸にも梅雨にも負けず、気を引き締めて仕事に励みたいと思います。

(根本靖子)

✉ 今年前半はあちこちと遠出をしたけれど、後半はのんびりゆったり空を眺めて過ごすつもりです。素敵な音楽とともに。

(大山亜紀子)

✉ 冷え対策として、最近寝る時に腹巻きをするようになりました。身体の芯から温まり、体調も良くなった気がします。

(古屋史子)

●編集・発行

認定特定非営利活動法人

ふくしま NPO ネットワークセンター

〒960-8034 福島市置賜町 1-29 佐平ビル 8F

TEL 024-528-1211

FAX 024-528-1218

E-mail center@f-npo.jp

URL <http://www.f-npo.jp/>

